

フェデリコ・エレロ Fedelico Hererro (コスタリカ)



ワールド マップ
アートプログラム参加作品「World Map」 会場：グローバル・コモン6

オセアニア・東南アジアのパビリオンが集まるグローバル・コモン6には、「愛・地球博」の会場では唯一観客が水と直接触れ合える、通称「じゃぶじゃぶ池」があります。その池の底面に作品を描くのがコスタリカ出身アーティスト、フェデリコ・エレロです。フェデリコは、鮮やかな黄色と青色で世界地図を描き、博覧会ホスト国である日本のような島国にとって大きな意味を持つ「国と水の関係」を作中で表現します。



コモン6会場図

水は生命の源として、あるいは通商や交通に不可欠なものとして重要視されますが、時に（特に島国にとっては）他国との境界となり、孤立を招くこともあります。彼は、そういった境界を限りなく排除する目的で、湖底に描く地図を、まるでパズルのように配置替えしてみたり、サイズや形そのものを変え、文化が自由に行き交う様子を描きます。訪れた人々にとって、この池は、足を浸けてじゃぶじゃぶ歩くことで、自由に国境を越えて旅することができる遊び場でもあります。一般的に「見る対象」と考えられる絵画は、同作品中では人に働きかけるという新しい機能ももつこととなります。

フェデリコ・エレロ Federico Hererro

- 1978年 コスタリカ、サンホセに生まれる
エレディア、イスパノアメリカーナ大学にて教育を学ぶ
ニューヨーク、プラットインスティテュートにて絵画を学ぶ
1996年 サンホセ、ヴェリタス大学にて建築を学ぶ

教育、絵画、建築を学んだ経験も生かし、その場所を利用するあるいは鑑賞する人と作品との関係を考慮しながらプロジェクト型の絵画制作に取り組む。2004年、東京でのレジデンスプログラム（滞在制作）にも参加している。



フェデリコ・エレロ

[過去の作品]



Information Center Wall and floor paintings / 2004

プエルトリコで行われたプロジェクト。待ち合わせをする人々、休憩を取る人、情報を求めてやってくる人など、人の目的にかなう絵画の役割を追求。



Gato / 2002

プロジェクト型の作品とは別に、自らの心象風景をキャンバスに描く平面作品も多数制作。